

CMSC JOURNAL

Vol.1



全国大会に出席した会員



ごあいさつ

CMSC会長 外川一雄

全国のCMSC並びに関係者の皆様、このたび、待望のCMSCジャーナルを発刊する運びとなりました。

思えば20年前の1963年、日本における本格的モータースポーツ発祥のスタートとして第1回日本GPレース大会が開催されました。国際機構の中で、日本のモータースポーツ統括機関、JAFスポーツ委員会が発足したのも同時点でした。

発足直後は、メーカー同志が火花を散らす華々しいレース主軸時代が続きましたが、やがてそれも淘汰され広く一般スポーツマンによって開催、参加出来る大小各種目の競技会が盛んに行われるようになりました。今や世界選手権大会の開催など含め諸外国と肩を並べるまでの発展を迎え、スポーツライセンス人口も8万人を擁するまでとなりました。自動車生産国世界第1位にまでなった現在を思うと、まさに隔世の感があります。

我がCMSCは、その日本のモータースポーツ発展と全く同じ道歩んできました。当初「コルトモータースポーツクラブ」と称する、三菱のファクトリーチームとして誕生し、第1回日本GPを皮切りに、他メーカーのマンモス2座席レーサーの過当競争を尻目に、モータースポーツの真髄であるフォーミュラカーレースを提唱、その振興とリーダー役を務めた三菱は大いなるパイオニアであったといえるでしょう。一方、市販車をベースとしたウイークエンドスポーツも盛んになり、これが自動車愛好者のホビーとして定着し始めた頃、全国各地の三菱ファンによって、自然発生的にディーラーを中心として次々とクラブが設立されました。これはまさにアマチュアオリジナルの三菱車によるモータースポーツ活動、見方によれば、非常に輪郭の明確な三菱愛好者の集いがあったのです。一方それらは、「コルトモ-

ータースポーツクラブ」の名を冠してJAFに登録され、正式な組織人格を取得したのであります。皆さんのクラブの発祥はここにあり、今日に至っていることはご承知のとおりであります。

その長い歴史の中にあつては、それぞれ自動車に対する難しい社会環境、モータースポーツに対する一般世評、メーカーがオイルショック、排気公害問題などにより冷えた時代、スポーツポテンシャルのある車が途切れた時代等乗り越えて、固く団結して今日にいたり、益々充実した活動と人の和を維持されていることは誠に喜ばしいことです。このようにして活動している全国CMSCの組織は他に類を見ない独自のものとして高く評価されております。

日本のモータースポーツは、歴史上何十本かの筋によって支えられて今日に至った訳ですが、その中の一筋は確実にCMSCの貢献によってなされた

ものと自負すると共に大いに誇りにして良いと思います。

ランサーターボの出現、その活躍ぶりによって一時の停滞を脱皮し、現在は意気軒昂たる様子うかがえます。

各メンバーがモータースポーツにのそしみ、情熱をかたむけ、CMSCを通して知り得た人の和は、長い人生の中でより一層の充実感を得る事に役立つものと思われま。

又、我々はまだまだ本物でない日本のモータリゼーション、特にその頂点にあるモータースポーツを文明でなく文化として次の世代に正しく伝承していくためにも、責任があるのではないかと思います。

このジャーナルの発刊は必ずやCMSCの今後の活動の充実と和の広がりのために欠かせないものとなり、大いに役立つものになると確信します。

CMSC全国大会(総会)盛大に開催!!



出席者全員が着席、大会が始まった。



外川会長のお話全員静聴。



CMSCTシャツを手に田口氏(左)須賀氏(右)

久しぶりの全国大会(総会)。7月30日、全国のCMSC会員代表がここ、福島県二本松市東北サファリパークに結集した。開始時刻の午後2時を前に集まった会員——出席者は総勢47名。CMSC本部の外川会長、木全氏、田口氏をはじめとして、地元CMSC福島はもちろん帯広、札幌、青森、岩手、山形、栃木、岐阜、島根、香川の各代表。メーカーの三菱自動車から北根氏、前田氏、須賀氏、堀氏、高桑氏、野村氏、そしてテスト&サービスの益子氏も出席。久しぶりに顔を合わせるメンバーも多く、なごやかな雰囲気の中に大会の司会役を勤めるCMSC本部木全氏の言葉で幕が開かれた。議題は次の通り。

- 1.各CMSCの活動状況説明
- 2.三菱自動車の今後のスポーツ活動説明
- 3.ランサー新スポーツキットの紹介
- 4.クラブ援助説明
CMSCジャーナル説明
- 5.JAF地域協議会及び地域活動
各CMSCの今後の方針、要望、意見交換

まず、すべての議題に入る前に、外川

会長の挨拶。日本のモータースポーツの歴史と共に歩んでこられた会長の言葉に一同深い感銘を受け、「コルトモータースポーツクラブ」は現在も健在なりの印象を深めた。このあと早速議題1へ。各CMSCの活動状況説明とそれぞれの出席者紹介。各地域ごとでは活発に活動しているものの、おたがいの状況を知る機会に恵まれなかったこともあり、全員の興味が集まる内容となった。議題は2に移り、三菱自動車工業株乗用車商品企画部北根主務からメーカーとして今後のスポーツ活動についての説明。ヨーロッパにチームラリーアートが出来ること、新開発車のこと、海外ラリー活動状況など、ふだんはなかなか聞くことができない貴重な情報に全員興味津々。詳しい内容については、本号4頁に北根主務ご自身が執筆されているので併せてご一読されることをお勧めしたい。大会はいよいよ佳境に入り、司会の木全氏も舌好調。議題3はランサー用改良型スポーツキットの説明。各パーツを手にしながらの詳しい説明に、ランサーのオーナーは「オレのクルマにもせび……」といった表情だった。続いて三菱自動車工業株宣伝部須賀氏からクラブ援助とジャーナルの発刊についての説明。まず今大会の出席者全員とクラブ会員

全員にCMSCオリジナルTシャツが配布されるとのこと。今後、宣伝部としてクラブ活動の援助に力を惜しまない旨声明があった。議題は5へ移り、JAFスポーツ委員でもある外川会長から地域協議会についての話。モータースポーツイベントを各地で開催するにあたっての注意があった。ちなみにJAFには本部から木全、田口両氏が技術小委員会のメンバーとなって出席している。

そして最後の議題は、各出席者からの質問や要望、意見交換の場となった。CMSCの山形の小川氏からまず第一声。「東北のイベントでは、シニアとジュニアを比較するとジュニアクラスの参加者が圧倒的に多くなってしまいが他の地区ではどうか？」の質問に、CMSC札幌の小町氏から、「北海道でもそれは同じ状況。チャンピオン戦は出場台数が60台を割るというのにジュニアクラスは満杯。」との答。また小川氏の「三菱には1300cc以下の車がないが、その点はどうか？」の質問に、北根氏の「1300以下で試してみます。何れジャーナルで発表することになるでしょう。」の答に一同感嘆の声が上がった。ほか本部への要望としてCMSC青森・鶴ヶ谷氏から、「宣伝部の方へ、CMSCのネーム入りのものを色々作

ってほしい。」のほか会員から、「各メンバーの戦績発表をぜひジャーナルで発表してほしい」とジャーナルへの希望もあった。最後に北根主務から各メンバーへ「総会開催についてどんな形を希望しますか？」の問いかけがあり「年に最低1回は開催してほしい」という答が圧倒的。中には「ドライビングスクールなどのイベントも同時開催したら……」との意見もあった。これを最後にCMSC全国大会(総会)は各出席者それぞれの思いを抱きながら盛大にその幕を閉じた。

翌日同サファリパーク内のダートトライアルコース——エビスサーキットで行なわれる予定の「タイヤスタートトライアル及びす大会」のイベント成功を期して前夜祭が行なわれた。牛1頭の丸焼きを囲んであちらこちらにモータースポーツ談議の花が咲く。定評のある軽妙な司会はここでも木全氏。宴たけなわとなってカラオケなしの歌も飛び出し、豪華な賞品の抽選会なども行なわれた。これで明日晴れてくれればと全員が祈るうち前夜祭もお開きとなった。



CMSC 帯広



会長
鎌田幸広

各メンバーともトライアル、ラリーに活発に出場し、良い成績を残しています。しかしながらラリーの成績が不調なので、練習と体制固めに力をいれていきたいと思ひます。

CMSC 札幌



代表(副会長)
小町 章

メンバーも組織も一新、今、まさに再スタートを切ったところ。全国のCMSC会員が必ず出場できる本格的なラリー(準国内)を計画。皆さんどうぞご参加ください。

CMSC 青森



会長
鶴ヶ谷慶市

出来ることからどんどん実行していこうと考えています。クラブ自体はもちろん、モータースポーツ活動をもっと地域社会にアピールし、社会的にも認められるよう頑張ります。

CMSC 岩手



事務局長
佐々木 学

道路状況、スポンサー、ディーラーとの関係など比較的恵まれた環境の中で活動しています。地域住民とのトラブルはおこさない、させないということを第一に心がけています。

CMSC 山形



会長
小川日出雄

ダートラリーを年1回開催しています。7月の東北ジュニア選手権ラリーにはじめて出場した女性メンバーのナビが優勝しました。底辺拡大を図っていく考えです。